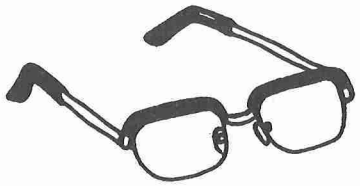
《名誉教授より》

国立大の独立法人化はあまりにも短絡的だ

海　野　和三郎（名誉教授）

人類は平和と自由・平等な世界を希求し努力を重ねてきた。しかし、他方では、思想・信条の対立による戦争や民族間や内外の利害関係のために紛争が絶えない。貧富の差は拡大し、不平等は世界的に進んでいる。また、人間精神の荒廃とともに倫理観が衰え、社会における共同体意識は希薄となってきた。最近の日本における教育の荒廃はみすごすことのできない状況にある。

人類は、今、その生存に関わる大きな課題に直面している。石油資源は10年毎に１割減りおよそ100年で枯渇する。大量生産大量消費文明の終焉は近い。化石燃料の浪費は、一方では地球環境破壊につながり、人口問題と共に人類の将来を危機に陥れている。新しい世紀の幕開けを目の前にして、老若男女を問わず志を同じくする者がいまここで立ち上がってこの危機を好機に転ずるのでなければ、緑なす美しい平和な地球を子孫に残す機会は永遠に失われるであろう。人類と自然との共生を希求しなければならない。

長期的視野に立つならば、すべての人が価値観と人生観の転機によって生活スタイルを変えねばならない。それには、それに適合した教育改革が不可欠である。国立大学の独立法人化がその方向にあるならばこれ以上言う事はない。しかし、事実は全く逆である。国立大学の長期的全人類的使命は、新しい価値観の創生とそれを担う人材の養成にある。その役割は勿論国立大学に限らず私立大学にもまた大学以外の諸機関にもあるが、国の機関とした中心的な役割を担うのは歴史的にも国立大学であり、その機能は一朝一夕に築き上げられるものでもない。

価値観にも大別して歴史的価値観、美的価値観、知的価値観の３通りがあり、ごく荒っぽく脳の機能に対応させれば生命を司る反射脳、心を司る情動脳、知性を司る論理脳の機能ということになる。国の機関として、歴史的価値観の創生をし国の生命を司る役目を担うのは議会であり、政府であり、行政官庁である。国立大学の機関としての予算や運営の権限を握るのは文部省であり政府であるが、多少の例外はあるが次の時代に重要な知的価値観の創生は大学における研究と教育による以外に無い。美的価値観が主として働く音楽や美術であれば、もともと個人的な資質に負う所が大きいから、国立の機関がなくてもあるいは私立だけでやっていけるかもしれないが、芸術が国是の一つである文化国家では国立の機関が無いことは考えられない。ましてや、21世紀の人類の危機に対処することを我が国の国是とするならば、独立法人化が国立大学の知的価値観の創生という本来の役割にどう影響するかの具体的な検討なしに、当事者に図らずに政府の都合で一方的に財政改革の一環として決めてよいものではない。大学は業務を行う官庁とは違うのである。業務を主とする官庁は、内臓諸器官の如く主として反射脳（政府）のコントロールで動くが、大学はむしろ主として知性脳の領域に属するから、運営のサポート以外に政府が口出しをすると、血行が阻害された脳の場合のように本来の機能が動かなくなり、ひいては国運の衰退を招く恐れがある。一代で滅んだ秦の始皇帝の焚書坑儒の短絡に等しい愚を行ってはならないのである。